

林業・木材産業事業体ファイルの作成について
-宮古管内の樹種別、品質別の素材需要・供給量調査報告-

1 はじめに

当管内は木材産業が盛んな地域で、木材産業事業体の素材需要量が、林業事業体の供給量を上回っています。このことから、木材産業事業体からは供給量の拡大が求められていますが、その前提として管内の需給状況の詳細な調査が必要となります。

そこで林務室では、管内の素材需給量の把握と将来予測を目的として、本年度から事業体ファイル*の作成に取り組んでいます。今回、その作成でとりまとめた、素材需給量の調査結果を報告します。

2 調査内容

管内の木材産業事業体13社、林業事業体11社を訪問し、平成27年度の樹種・品質別の素材需要量と素材供給量を聞き取りました。

3 調査結果

(1) 需要量(図1)・・・需要量は合計で約30.8万m³/年で、スギが約4割でした。また、品質別ではB材が最も多いことが分かりました。

(2) 供給量(図2)・・・供給量は合計で約7.4万m³/年で、スギが約4割でした。また、品質別ではB材が最も多くなった一方、需要量と比較して品質間の差が小さくなりました。これは、林業事業体が素材を品質別に仕分け、販売しているためと思われます。

(3) 需給率(図3)・・・需給率は針葉樹で14~24%、広葉樹で41%となり、樹種で差が見られました。また、品質別では針葉樹A材で50%、B材で13%となり、品質間でも差が見られました。

4 結果の活用と今後の予定

宮古管内で需給率が最も低いのはB材で、需給率向上には、供給全体の底上げが必要と考えられました。この結果は、12月に開催する宮古・下閉伊地域木材安定需給連絡会議で報告し、林業・木材産業事業体間で情報共有を図ることにより、宮古管内での素材需給の連携を支援します。

*林業・木材産業事業体ファイル

管内の林業・木材産業事業体を対象に、創業の経緯・従業員数・売上高・素材取扱量・販売先等を整理したファイル。毎年更新。

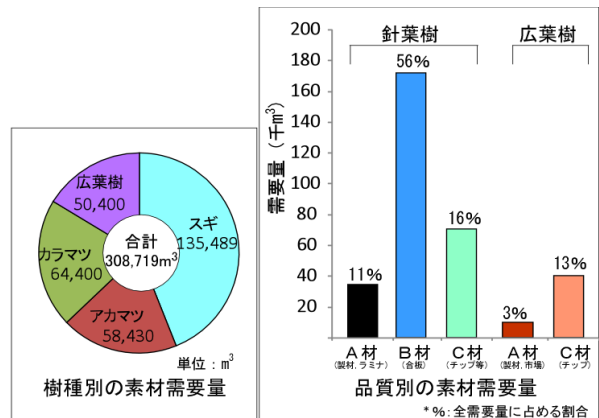


図1 管内の木材産業事業体の素材需要量 (13社から聞き取り)

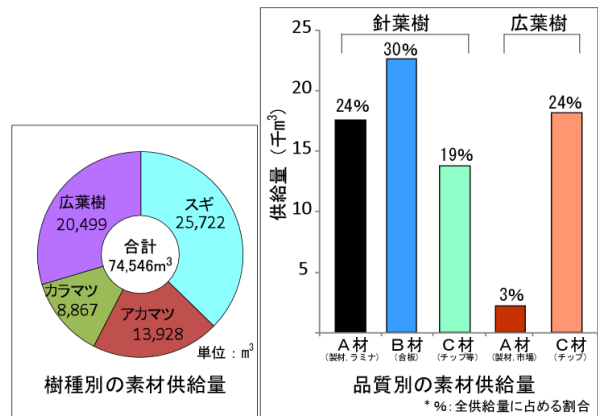


図2 管内の林業事業体の素材供給量 (11社から聞き取り)

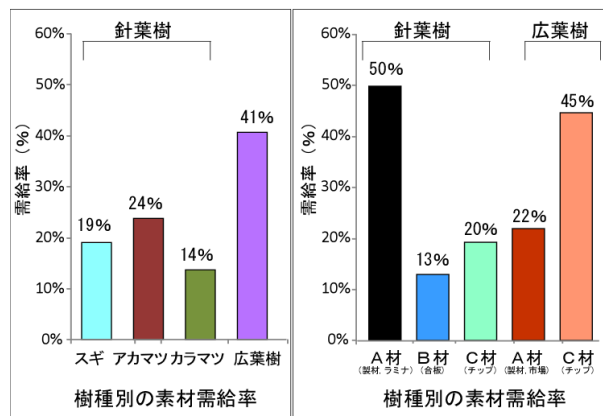


図3 管内の素材需給率 (素材需給率=素材供給量/素材需要量×100%)